



課題の得点力分散に光

19点の大差をつけて4連覇を決めた興南。エースの東江雄斗主将だけでなく、下地賢志・仲田圭吾らが次々シュートを決め、浦添を引き離した。

課題としてきた「東江に頼りすぎずに得点力を分散させる」が、形となってきた。最多得点の仲田は「みんなで攻めた結果。自分が、たまたま最後にシュートしただけ」と控えめに、結果を出せたことを喜んだ。

下地も「ミスがあったが、気持ち切り替えた。みんなでカバーしよう」と話した通り「できた」と笑顔を見せた。東江も、相手ディフェンスをひきつけて味方のチャンスをつくれたことを自己評価した。

ゲーム終盤には1年生も出場。黒島宣昭監督は「1年生にも出場機会をつくり、バランスよくできたのが良かった」と振り返った。

12月には九州選抜出場権をかけた大会がある。東江主将は「防げた失点があり、確実にとりたい場面でのシュートミスもあった。次の大会に向けて修正していきたい」と話した。（安里真己）

4連覇 興南 那覇西

ハンドボール
（浦添市民体育館）

▽男子決勝

興南 42
▽同3位決定 23 19
11 12 23 浦添

▽同3位決定

那覇国 35
11 16 11 17 10
3 延長 1 3
4 7 1 3
3 T 3 34 眞商

▽女子決勝

那覇西 31
13 18 14 浦添
7 7

▽同3位決定

コザ 26
15 5 13 普天間
8 8

守り強化の 成果見えた

那覇西がダブルスコアの快勝で、4連覇を飾った。下地保監督は「ボールがつかないなどミスも多かったが、守りが良くなってきている」とチームを評価



那覇西一貫の決勝・浦添最多得点した那覇西の浦添間莉奈＝浦添市民体育館

した。「守って速攻」がチームカラー。意識的に守りを鍛えた成果が、みえてきた。

最多10点を挙げた上間莉奈は「後半まで、GKをよく見てコースを狙ったり確実にシュートできたし、ミスを減らせた」と結果を喜んだ。ただ、全体的にはポストに回す意識が強く、自分で打っていく気持ちが少

し足りなかった」と三輪はるか主将は反省。「那覇西と試合するのはもう嫌、と相手が思うくらい、前から当たって、得点していきなさい」と、次に向けて気持ちを引き締めた。

上間は「個人のレベルを上げないと、先輩にはまだまだ追いつけない」と、前回大会を制した3年生を追いかける覚悟だ。